

とかち帯広の明日を描く



編集発行
上野ようすけ連合後援会

帯広市西12条南17丁目3
難波ビル2階

☎ (0155) 24-2540番
FAX (0155) 21-3185番

vol. 2

うえの 上野ようすけのレポート



info@uenoyosuke.net http://www.uenoyosuke.net/



今年もよろしくお願いいたします。

上野庸介

2017年の幕が開けました。今年の干支は「酉」です。干支同様、私の「鳥の目、虫の目」もよろしくお願いいたします。

お正月休みと言っても事務所にほぼ毎日寄っていましたので、「完全な休日」とはいきませんでした。が、それでも普段よりも多く、家族や友人と楽しい時間を過ごすことができました。

12月31日の大晦日、朝4時に起きまして、友人に「氷上わかさぎ釣り」に連れて行ってもらいました。初めてのわかさぎ釣りでしたが、これでもプロフィールに「趣味は釣り」と書くくらい釣りの経験は豊富です。ここは久々に腕の見せどころと緊張していたのですが、なんと1匹も釣れませんでした。息子も友人も。

管理事務所の方に伺ったところ、私たちだけではなく、ほかのグループも全く釣れていないとのこと。

と。夏の台風によってわかさぎの稚魚が海に流れ出してしまっていたのではないかとおっしゃっていました。はつきりとは断定できないとのことでしたが、もし、そうだとすれば、この釣り場にとっては死活問題です。2016年の最後の日にも台風の被害を感じることとなり、改めて、厳しい1年だったと痛感した次第です。

さて、振り返ってみますと昨年は、台風被害はもちろんですが、天候不順、そして鳥インフルエンザと十勝の基幹産業である第一次産業、生活インフラ、そして観光産業に大きな影響が出てしまう本当に厳しい1年でした。それまで当たり前にあつた「日常」を奪い去っていく自然の猛威を目の当たりにし、これから求められる災害対策、防災政策とはどのようなものなのか、既存の政策のどこを維持し、どこを見直すのか、いざという事態に市民の生

活を守ることができると推し進めることが求められる2017年になると感じずにはいられません。このような状況の中で、その世界で力を尽くすことができない自分自身のふがいなさを改めて感じております。

さて、今年は十勝で7つの町村で首長選挙がありますが、衆議院の解散がない限り、国政選挙はありません。

穏やかな1年になるのか、それとも日本の政治も昨年の欧米同様「一寸先は闇」だったと振り返ることになるのか、それはまだわかりませんが、私自身政治の流れに注視して行動して参る所存です。本年も多くの皆様のご支持・ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。新しい1年が始まったご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い致します。

レポート
vol. 1

松崎町の中心で観光を学ぶ

昨年秋のことですが、帯広の開拓姉妹都市である静岡県松崎町へ行ってきました。

松崎町と言えば、漆喰しっくいを使った左官技術によって作られるなまこ壁が有名ですが、昨年秋、漆喰を使用した「光る泥だんご作り」を帯広の森幼稚園で開催しました。光る泥だんご作りは松崎町も熱心に取り組まれていますので、幼稚園で実施したご報告のための訪問でした。

また、今回、訪問した理由はもう一つあります。次のページに掲載していますが、私が中学2年生の時に参加させて頂いた「松崎町訪問団」の文集を父が図書館で見つけてきたためです。中2時代の私の文章も掲載されており、その最後に、「みなさんも、松崎町へ行って、僕達の町帯広市にはない、

美しさ、そしてすばらしさをみつけてきませんか。」とあります。

「そこまで言うならば」と、中2の自分に誘われて訪問したというわけです。

一泊二日の訪問で、まずは作文で取り上げていた「岩科学校」を伺いました。作文のとおり歴史と文化を至るところに感じる文化財です。展示物の紹介をしてくれた係の方に、「実は帯広から来たんです」と申し上げたところ、その方は「帯広から！ 私の娘も数年前に帯広へ訪問団の一員として行ったんですよ」とのこと。この時、私は「帯広を知ってくれてよかった」とほっとしました。本州で帯広と言ってもいまいち伝わらない経験を何度もしているので。

その後、当時宿泊した建物ではないものの、中2の時も宿泊した

国民宿舎まつぎ荘へ。ここでも職員の方に帯広から来た旨をお伝えすると、「帯広からわざわざ！ありがとうございます」と歓迎のお言葉を頂きました。

「帯広」という言葉を聞いて即座に歓迎の気持ちを表してくれる町民の皆さん。そのうえ、「大きな馬の競馬で有名ですよね」（ほんえいのこと）、「高校がマンガになりましたよね？」（銀の匙のこと）「日本一寒い町が近くにあるんですよね」（陸別のこと）など、皆さん帯広を本当によくご存じです。「どうして帯広をそんなにご存知なんですか？」と伺うと、「だって、開拓姉妹都市じゃないですか」と。

さて、逆の立場になったとき、私たちは松崎町の何を語れるでしょうか。帯広にいらっしゃった松崎町の方と突然会った時、「依田勉三」以外の何を話せるでしょうか。松崎町があったからこそ依田勉三が生まれ、帯広に開拓の鋏

を入れることができた。そう思えば、松崎町への尊敬の念をもっと持つてもいいのかもしれない。もっと松崎町のことを知るべきと、いつてもいいでしょう。

今回の松崎町民の皆さんの言葉を聞いて、これは今、観光に必要とされている「おもてなし」だな、と感じたりもしました。

また、松崎町はTBSドラマ「世界の中心で愛を叫ぶ」のロケ地であり、それを売りにした観光プロモーションを長きにわたって徹底的に仕掛けています（ちなみにドラマは2004年の放映）。歴史と文化を有するこの地でさえ、それ以外の観光資源を有効に活用しています。何が功を奏するかわかりませんが、観光とは歴史と伝統と文化の中に新しさを融合させなければいけないものかもしれないと、学んだ次第です。

皆さんもぜひ松崎町へ足を運んでみませんか？

重要文化財「岩科学校」を見学して

第四中学校二年 上野 庸介

明治十三年に建てられた洋風建築の校舎には時代の違いを僕達に感じさせる空気が流れていた。名人、入江長八が彫った龍と、時の太政大臣、三条美美の書いた扁額が校舎正面にかかげられ、社寺建築の様式をとり入れたなまこ壁も一部見られた。百五年という、歴史の浅い帯広市から松崎町に研修にきた僕達にとって、このような文明開化の影響を受けた建物には、なじみが薄いせいか見学する物すべてに、新しい感動が生まれていた。

中に入ると、正面には校長室が、そのとなりには、教室があった。校長室には、時計・ランプなどを置いていたが、それらのほとんどが外国で作られたものであることに気が付いた。教室では、昔の子供たちが勉強をしている様子を、人形にして飾ってあった。継ぎはぎの着物を着て勉強している子、赤ちゃんをおぶりながら教科書を読んでいる子。今では、考えられない場面を目にして僕は、今の時代で生活しているありがたさを改めて感じた。

次に僕達は二階に上がった。二階には、昔や最近の教科書・卒業証書などが展示されていた。片仮名を平仮名のかわりに使った教科書から、僕達が見たことのあるような教科書まで、数十種類が机の上に並べられていた。この部屋は、同行された先生方には人気があったが、

数多くの教科書を見て、勉強のことを思いだし苦笑いする仲間もいたようである。

そして、この「岩科学校」の中で忘れてはならないものがある。それは、「入江長八の鶴の間」だ。この部屋は別名「西之間」と呼ばれ、当時は作法・裁縫などの授業に使ったらしい。床の間にのぼる太陽を表現した紅の壁。脇喰には松風に飛び立つ鶴の群れが鏝絵で描かれていた。この鶴は、美濃紙を口にくみぬらし、鏝杯の上で漆喰とませ合わし、肉づけし仕上げたという。これらの作品は、すべて入江長八が作ったものである。この部屋がすばらしいといわれるのは、これが理由なのであろう。ふだん、漆喰とは縁のない僕達は、この鶴の美しさに、心うばわれてしまった。

以上「岩科学校」についての僕自身の感想を述べさせていただいたが、人に説明されて納得するよりも、自分自身で実物を見学するほうが、それぞれ新しい発見ができると思う。みなさんも、松崎町へ行って、僕達の町帯広市にはない、美しさ、そして、すばらしさを見つけてきませんか。

第9回 開拓姉妹都市松崎訪問団研修報告

昭和62年度

三翁の ふるさとを学ぶ

帯広市
帯広市教育委員会



大きな泥だんご(伊豆の長八美術館にて)



ドラマで使用されたロケ地

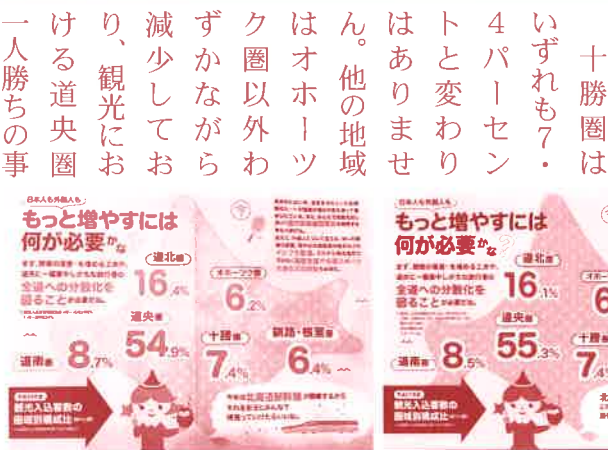
レポート
vol.2
参加して
北海道観光を考えるみんなの会に

年が明け、1月6日。今年最初の出張として札幌へ行ってきました。個人会員で参加している「北海道観光を考えるみんなの会」に参加するためです。記念講演は格安航空会社（LCC）のピーチ・アビエーションCEOの井上慎一さん。演題は「空飛ぶ電話 Peach の挑戦」。日本のLCCの先頭を走るピーチの取り組みを大阪気質あふれるユニークな語り口で話されていました。



さて、この会では毎年、北海道観光をまとめた冊子が配布されます。その中に北海道内の観光入込客数を圏域別で示したわかりやす

い図が掲載されています。右は今年配布されたもの（平成27年度の数字）、左は昨年配布されたもの（平成26年度の数字）です。



十勝圏はいずれも7・4パーセントと変わりはありませんが、他の地域はオホーツク圏以外わずかながら減少しており、観光における道央圏一人勝ちの事実が数字で示されています。減少していない十勝は健闘しているとも言え、観光関係者の皆さんの努力の証がみえます。ただ、来年配

布されるであろう平成28年度の数字はもう少し大きく変わるものとする予想されます。北海道新幹線の開通と、夏場から年末までのJRの不通と、今なお続く日勝峠の不通が大きく影響するためです。

乗車率の低さが取りざたされる北海道新幹線ですが、本州とつながった効果は大きく、（私も夏に行って感じましたが）函館は多くの観光客で活気があふれているそうです。本州からの方でもインバウンドの方でも、今、道央圏には多くの観光客が来ています。賛否両論ありますが、日本に多くの観光客を呼び込む可能性もあるIR (Integrated Resort 統合型リゾート) に関する法案も昨年の臨時国会で成立しています。北海道では釧路や苫小牧がこのIRに積極的にとされています。

目と鼻の先まで来ている（来ると予想される）観光客をどう十勝に呼び込むか、二次交通の整備、十勝にしかない観光資源のPRと発掘等々、これは政と官と民が一体となって（同じ方向を向いて）

お知らせ

まだ先の話ではありますが…。
今年のナイスタウン杯パークゴルフ大会は、
平成29年9月24日(日曜日)
に開催を予定しております。
近づきましたら、改めてご案内いたします。
※次回の鳥の目虫の目は、4月の発行予定です。

考えていかねばなりません。ご報告ですが、私は昨年11月から帯広商工会議所の議員にならせて頂きました。所属委員会は観光・文化委員会です。まだ十勝に戻って間もない私ではございますが、しばしの間は、この委員会の場で勉強させていただきつつ、私の思う十勝の観光像を発言して参りたいと思います。